

一つの願ひ

一 讀者

幼児教育に就て一年なり二年なり所定の學理的
研究と實習を終へ、あふるゝ希望と理想を持って實
社會に第一歩を踏み出された若き保母諸姉、扱我
が園兒、我が組、我が幼兒の前に、實に生き甲斐あ
り楽しくうれしい朝夕を過される事とせう。が一

年もたつと思はぬ、又解けぬ疑問が一つ二つ、や
がて之もあれもと出て來るのではないでせうか。

又若いお母様が「初めてなので親の方の育て方
子供にのぞむ事にも無理があるのではないかと思
ひます、かういふ事は？ あゝいふ事は？」と多
くの疑問、質問を持つて居られます。

十年二十年保育に従事して居る者をまづ経験者

と申しますならば其経験者でも、はたと疑問に行
き詰り時にはぱた／＼とつ解けばまた一つ、次
ぎ／＼にあれこれと小さい事大きい事の別なく疑
問に苦しむ事は多々ありませう。

幼児教育界唯一の歴史と權威ある幼児教育紙上
に、質問欄なり、問答欄なり、名稱は何でもかま
いません、さういふ意味の、質問と應答の欄があ
つたらどんなに幸かと思ひます。

質問欄を置くように、一讀者氏の他に
も御希望がありますので、本欄を設ける
ことに致しましたから、どし／＼御利用
下さい。